

研究機関：広島大学

研究課題名	先端巨大症の長期治療成績
研究責任者名	広島大学病院 脳神経外科 教授 栗栖 薫
研究期間	2018年8月2日(倫理委員会承認後)～ 2021年3月
対象者	2005年10月から2019年3月の間に、広島大学病院脳神経外科で先端巨大症に対する手術を受けられた患者さん。
意義・目的	先端巨大症(=成長ホルモン(GH)産生下垂体腺腫)の術後寛解基準として、75gブドウ糖負荷試験によるGH底値とIGF-1値の両者が正常化することとされています。しかし、実際には片方のみ正常化するという例が約25%も存在します。片方のみが正常化した患者さんに対して、どのような治療を行えばよいのかまだ明らかにされていません。本研究ではGH底値とIGF-1値の片方のみが正常化した患者さんが長期的にどのような経過をたどっているのか調査し、治療方針を明らかにすることを目的としています。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査(主にホルモン値)、MRI所見、手術所見、病理所見です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 脳神経外科 教授 栗栖 薫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5227 広島大学病院脳神経外科 助教 木下康之